

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



謹賀新年

思川開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場

第4回及び第5回幹事会が開催されました

思川開発事業は、ダム事業の検証に係る検討を行っているところです。その手続きの一環として「思川開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場」の第4回幹事会が11月9日に国土交通省関東地方整備局にて開催されました。第3回幹事会が開催されてから約3年半ぶりとなる幹事会の開催となりました。

幹事会に出席された関係都県（茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都）の方々からは、ダム検証の早期完了及び事業の早期着手・完成、また、引き続きコスト縮減を求める意見を頂くとともに、思川開発事業に対して大きな期待を持って頂いていることを改めて認識することができました。

また、12月25日には、つづいて第5回の幹事会が開催されました。出席された関係都県からは、ダム検証の早期完了及び事業の早期着手・完成を求める意見を改めて頂くとともに、水源県である栃木県からは水源地域への生活再建対応を求める意見を頂きました。

引き続きダム事業の検証に係る検討の進捗を図って参るとともに、ダム事業の検証中も生活再建事業については、適切に実施して参りますので、今後とも思川開発事業へのご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

栃木県小山市から水資源機構が感謝状をいただきました

11月19日（木）、小山市役所において、小山市長から水資源機構に対して感謝状が贈呈されました。

これは、平成27年9月関東・東北豪雨の影響により、小山市内の各地で浸水被害が発生した際に、同市からの要請を受けた水資源機構が浸水被害の復旧支援を行ったことによるものです。

水資源機構では、9月10日（木）から13日（日）の4日間、小山市の^{はねかわにし}羽川西浄水場や^{よらがわ}与良川排水機場等にポンプ車等の機材や人員を派遣して、昼夜連続での排水作業を実施し、思川沿川での災害復旧の一翼を担いました。

贈呈式には、水資源機構から片山危機管理監、伊藤思川開発建設所長が出席し、大久保小山市長からは「機構の支援に感謝します。いち早く駆けつけ、大きな排水能力のあるポンプにより夜を徹して作業していただいたことにより、浄水場等の早期復旧が図られました。」との感謝のお言葉をいただきました。



【左から伊藤所長、大久保市長、片山危機管理監】

付替県道工事の進捗状況報告（^{かみくが}県道上久我栃木線）

^{あわざわ}栗沢進入路中流工区その2他工事が完成しました



現在、思川開発建設所では、県道上久我栃木線の付替工事を行っています。そのうち鹿沼市^{かみなんま}上南摩町の栗沢地区で昨年3月から行ってきた『栗沢進入路中流工区その2他工事』が平成27年12月に完成しました。これに伴い、付替県道工事は67%を超える進捗率となりました。

この工事では、付替県道の栗沢周辺工事区間の進捗を図るため、工事用進入路2路線を造成するとともに、付替県道本線について約100mの道路基盤を造成しました。

工事現場は山間部で斜面が多く見通しも悪いため、ダンプトラックで土砂を運搬する際の車の接触防止対策など、施工中の安全に特に注意を払いました。また、工事期間が梅雨や台風時期と重なるため、大雨や急な雷雨、突風への備えに万全を期して工事を進めました。

合わせて、環境保全にも十分留意し、騒音、振動や粉塵の発生を抑える対策を施すとともに、工事現場周辺で確認されている動植物の重要種については、その対応について専門家の指導、助言を受けながら工事を進めました。

工事に当たっては、工事関係車両の一般道通行時におけるマナー向上などを心がけ、地域の皆様のご迷惑とならないよう努めて参りました。この誌面をお借りしまして、皆様にご理解とご協力をいただきましたことに感謝し、御礼申し上げます。



【工事着手前（粟沢中流工区）平成27年3月】



【完成状況（粟沢中流工区）平成27年12月】

不法投棄撲滅へ向けて!!

鹿沼警察署との事業用地内合同パトロールを実施しました

南摩ダムの事業用地内には、家庭ゴミを始め、家具や家電製品などの不法に投棄されたと思われるゴミ類が、時々見受けられます。

こうした不法投棄への対策などの防犯を目的として、一昨年より、鹿沼警察署（西沢駐在所及び口栗野駐在所）と思川開発建設所による合同パトロールの取り組みを行っており、今年度も12月9日に実施しました。

思川開発建設所では、不法投棄が懸念される箇所に関係者以外の立ち入りを防止するためのゲートや看板を設置したり、監視カメラや電光の警告掲示板を設置するなどの対策も行っており、パトロールの際には警察の方に設置状況を確認してもらって、指導していただきました。また、警察との連携により、投棄物への適切な対応を行うことなどにより、不法投棄の件数も減少傾向にあります。

今後も引き続き、警察と連携して、防犯活動を進めていきます。



【パトロールに出発！】



【電光掲示等の確認状況】

かみなんま 第八回 上南摩そば祭り

鹿沼市上南摩地区にて、11月22日に第8回上南摩そば祭りが開催されました。

このそば祭りは、南摩ダムの建設に伴い自治会に組織された整備事業専門部が実行委員会となって開催されているものであり、回が重なる度に、評判を聞きつけたお客様の数が増え、地元産のそば粉を使った新そばを買い求める人の列は、途切れることはありませんでした。

主催者側も、その状況を見越して、そば打ち名人を昨年より2名増員して対応を図っていたようですが、美味しいそばをを求める人で長い列ができていました。



【地元のそば打ち名人達】

そばを食べるお客様の笑顔と、その口元から発せられる「美味しい」という言葉が、そば打ち名人達のそば打ちの技に更なる力を与えているようでした。

祭りには佐藤鹿沼市長も来場され、本そば祭りの開催にあたってのお祝いの言葉などを述べられました。また来年も美味しいそばをよろしくお願ひします。

思川流域のご紹介

第5回

鹿沼のそば

思川の源を発する鹿沼市では、『東京から最も近い本格的なそばの郷』をキャッチフレーズとした取り組みが展開されています。今号掲載の「上南摩そば祭り」でも、そばのおいしさを紹介していますが、鹿沼そばは何故おいしいのでしょうか。

－ 麻の後作の玄そば（黒い殻をかぶったままのそばの実）は特にうまい －

鹿沼市は麻の生産面積が日本一と前々号で紹介しましたが、この麻を刈り取った後に作付け、収穫されたそばは、特においしいと言われていています。鹿沼の在来種は、昔ながらの小粒なそばで、粉に挽いたときに香りの素となる甘皮の割合が多くなるので、香りが良いのです。また、深い山に囲まれた地形では、蜜蜂が山の尾根を越えて受粉活動を行うことはないため、他の種類のそばと交配することなく、鹿沼独自の在来種が守り継がれてきたのです。

－ そばの栽培にも、そば打ちにも、重要な役割を果たす水 －

鹿沼は、思川水系の水源地の一つであり、いく筋もの清流が流れ、昔からおいしい水の産地でもあります。この水のおいしさが、そばのおいしさの秘訣です。（参考：鹿沼そば振興会オフィシャルサイト）

編集 後記

新年を迎えて、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年の干支は申、申年は騒ぐ年と言われるそうです。騒々しくとも皆仲良く、犬猿の仲などと言われなように楽しくやっていきたいものです。

「猿の尻笑い」にもご注意を?!

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>